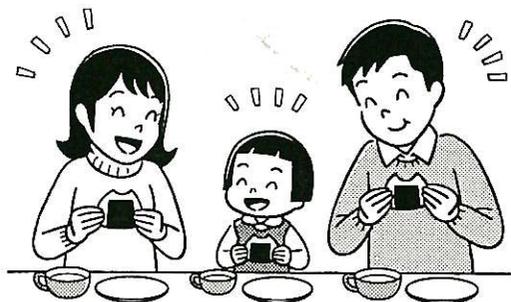


たのしくたべようニュース

一緒に食べる「共食」を大切に



家族や友だちなど、誰かと一緒に食事をするを「共食」といいます。家族で食事をすると、その日の子どもの状況を知ることができ、また、会話などを通して、家族関係や人間関係の形成に役立ちます。食事の時間が楽しく、安心感を感じるものとなるようにしてあげてください。

共食をするとういことたくさん

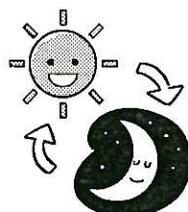
誰かと一緒に食事をするのは、いろいろなよい効果があります

自分を健康だと感じる人が多い



ストレスが少なく、心や体の調子がよいと感じている人が多いことが、子どもから高齢者までの研究でわかっています。

生活リズムがととのっている人が多い



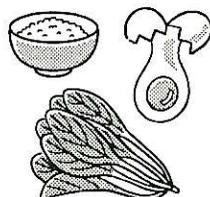
共食する機会が多い人ほど、早起き早寝などの、生活リズムがととのっている傾向があります。

朝ごはんを食べる人が多い



食事やおやつ時間が規則正しく、朝ごはんを欠かさず食べる人が多いことが報告されています。

健康的な食生活をしている人が多い



野菜や果物などをよく食べ、さまざまな食品をバランスよくとる人が多いと報告されています。

孤食することが多いと……

家族が同じ場所においても別の行動をしている場合には、孤食に含まれます。一人で食べることが多いと、食欲がわかなくなったり、食事が楽しいと感じなくなったり、食事内容が偏ってしまったりすることがあります。



いろいろな「こ」食

一人で食べる孤食以外にも、さまざまな「こ」食があります。それぞれの特徴を知って、食事を見直してみてください。



個食 それぞれが別々のものを食べるここと。

子食 子どもたちだけで食事をとること。

固食 同じものばかりを食べること。固定食。

粉食 パンやめんなどの粉からつくられたものばかり食べるここと。

濃食 外食などに多い、濃い味つけのものばかり食べるここと。

小食 食事の量が少ないここと。

忙しい時はできる範囲で共食

毎回の食事を、お子さんと一緒に食べられない時は、朝ごはんだけは一緒に食べる、休日だけは家族で食卓を囲むなど、無理のない範囲で工夫してみてください。

一緒に食事をするここと、食事の楽しさにつながります。



監修 女子栄養大学 栄養学部 准教授 衛藤久美先生